

令和6年度いじめ防止講演会 ご質問への回答

①道徳不活性化はなぜ起きるのが知りたい。

回答：自分の悪い行動や悪い手段を正当化・合理化しようとする生じます。悪い行動をした後に、恥、罪悪感などの感情から逃げようとして生じることもあります。弱い心を守るための機能です。

②学校に訴えかけたとしても、動いてくれないことはよくあることで耳にします。小さなことだからそのままになることもあります。子ども同士ででなくとも、先生から子どもに対する差別のようなこともある意味いじめなのではと思うことがあります。こんなとき、親はどう行動したらよいと思いますか？

回答：いじめ対策推進法では、被害者が学校内の人間関係の中で「いじめを受けた」と学校に伝えた場合、学校はいじめ対応を行うことになっています。保護者は、まず子どもの話をよく聞いて、記録をとり、学校に相談することをお勧めします。判断に迷う場合などは、スクール・カウンセラーに相談して助言を得ることも可能です。

① いじめが完全に無くなるような状況を作るのも危ないのでしょうか？

回答：児童・生徒のコミュニケーションはまだ幼く、失敗することもあると思います。いじめのような問題を生じさせた際に、早期発見・早期解決には大人の助けが必要になります。学校で子どもたちのコミュニケーションの機会を奪うと、いじめは無くなりますが、その環境は子どもの心身の健康な発達やコミュニケーションの上達にはつながらないかもしれません。

④いじめを注意してもやめてくれないときはどうしたら良いでしょう。逆に注意して何かされてしまったらどうしたら良いでしょうか？

回答：いじめは基本的に、力関係の強弱が存在する中で生じます。そのため、被害者が1人でいじめを止めるのは難しいでしょう。また、いじめを注意しようとしているのが傍観者などの周辺児童・生徒で、被害者でなくても、加害者の方が身体的・社会的に力が強い可能性があります。いじめを止めることが難しいと感じたら、教師やスクール・カウンセラーなど、学校にいる大人の助けを求めて下さい。